

本資料は、総務省の「令和 6 年度 NOTICEに係る注意喚起業務等に関する調査研究」事業（受託者：KDDI）の成果を基に作成したものを、総務省で公表するものです。

本資料に関するお問合せ等は総務省サイバーセキュリティ統括官室までお願いいたします。

メールアドレス: notice@ml.soumu.go.jp

NOTICEプロジェクト

令和6年度 IoT機器の安全管理に関する意識調査

(Webモニターアンケート調査)

KDDI株式会社
2026年3月



* 本資料は、総務省事業「令和 6 年度 NOTICEに係る注意喚起業務等に関する調査研究」の成果を基に作成しました。 ²

■ 調査概要

調査目的

IoT機器の安全管理に関する利用者の意識/行動実態を把握する。
本報告では特に以下の3つの結果を報告する。

- ①ルーターの乗っ取りに関するリスク認識率
- ②ルーター安全管理対策の必要性に関する認知率
- ③ルーター安全管理対策に関する実施率

調査手法

Webモニターアンケート調査

調査時期

2024年9月26日～10月9日

対象者

個人ユーザー 1,560人

定義：自宅等のプライベートでIoT機器を利用

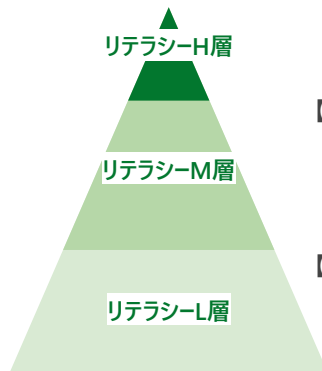
■ 調査概要

▼ 対象者条件の割付

リテラシー別構成

リテラシー	性別	年代	人数
H層	男性	20代	52人
		30代	52人
		40代	52人
		50代	52人
		60代	52人
	女性	20代	52人
		30代	52人
		40代	52人
		50代	52人
		60代	52人
M層	男性	20代	52人
		30代	52人
		40代	52人
		50代	52人
		60代	52人
	女性	20代	52人
		30代	52人
		40代	52人
		50代	52人
		60代	52人
L層	男性	20代	52人
		30代	52人
		40代	52人
		50代	52人
		60代	52人
	女性	20代	52人
		30代	52人
		40代	52人
		50代	52人
		60代	52人

本調査のリテラシー層の定義



【H層】

「ルーター」を認知し、且つ以下キーワード全ての意味を知っている
「ゲートウェイ」「ポート」「ファームウェア」「マルウェア」
「グローバルIPアドレス」「サイバー攻撃」「プロトコル」

【M層】

「ルーター」を認知し、且つ以下の内、最低一つは意味を知っている
「ゲートウェイ」「ポート」「ファームウェア」「マルウェア」
「グローバルIPアドレス」「サイバー攻撃」「プロトコル」

【L層（H層、M層以外の全てユーザー）】

「ルーター」を認知しているが、それ以外のキーワードの意味は知らない
（定義上は、調査対象外のルーター非ユーザーも含む）

■①ルーター乗っ取りに関するリスク認識率（H/M/L層×性年代による変化・傾向）

【設問概要】

- ルーターを正しく管理しない場合に起こり得る脅威において、各脅威のリスク認識に関する設問。

【調査結果】

- H層とM層では、共通して**60代男性**におけるリスク認識率が低く、H層では全般的に男性の認識率が低い。
- L層では、各項目の認識率で60%を下回っており、特に**30代男性**で認識率が最も低い。

設問内容／リテラシー	H層		M層		L層	
ルーターに不正アクセスされ、パスワード等のデータ改ざんや情報漏洩の被害にあう	60代男性 61.5%	20代男性 71.2%	60代男性 61.5%	50代男性 67.3%	30代男性 50代男性 48.1%	20代男性 50.0%
悪意のあるプログラムやソフトウェアに感染し、知らないうちに第三者への攻撃に加担してしまう	60代男性 59.6%	30代男性 65.4%	60代男性 61.5%	60代女性 63.5%	30代男性 46.2%	40代男性 50代男性 50.0%
家庭や職場のネットワークに侵入され、個人情報・機密情報の漏洩や金銭要求などの脅迫を受ける	60代男性 61.5%	20代男性 69.2%	60代男性 63.5%	40代男性 67.3%	30代男性 50代男性 46.2%	40代男性 51.9%
調査結果（平均値）	77.8%		73.5%		56.5%	

※各設問の行にリテラシーごとに記載の年代×性別は、当該設問における最も低い2つを記載

■②ルーター安全管理対策の必要性に関する認知率（H/M/L層×性年代による変化・傾向）

【設問概要】

- ルーターの基本的なセキュリティ対策において、実施方法の認識に関する設問。

【調査結果】

- H層とM層では、共通して**60代女性**における対策認知率が低く、M層では全般的に女性の認識率が低い。
- L層では、**50代男性**（26.9%）以外、いずれの世代・性別も25%を下回っており、特に**60代男性と全世代の女性**における認知率の低さが際立つ。

設問内容／リテラシー	H層		M層		L層	
設定画面のパスワードを第三者に推測されない複雑なものに設定する および 設定画面の認証機能を有効にする のいずれかを認知	60代女性 61.5%	30代男性 69.2%	60代女性 21.2%	50代女性 30.8%	30代女性 9.6%	60代男性 60代女性 13.5%
調査結果（平均値）	74.0%		38.1%		17.9%	

※各設問の行にリテラシーごとに記載の年代×性別は、当該設問における最も低い2つを記載

■③ルーター安全管理対策に関する実施率（H/M/L層×性年代による変化・傾向）

【設問概要】

- ルーターの基本的なセキュリティ対策において、実施状況に関する設問。

【調査結果】

- H層では全体的に70％超が実施しているものの、**60代女性**の対策実施率が低い。
- M層とL層では、H層と比較すると実施率が低く、特に**L層の女性では全世代を通じて10％以下の実施率**にとどまった。

設問内容／リテラシー	H層		M層		L層	
8つ（枠外記載）の対策のいずれかを実施	60代女性 57.7%	60代男性 20代女性 69.2%	50代女性 60代女性 17.3%	30代女性 28.8%	60代女性 5.8%	30代女性 7.7%
調査結果（平均値）	73.1%		34.6%		13.3%	

※各設問の行にリテラシーごとに記載の年代×性別は、当該設問における最も低い2つを記載

8つの対策

1. 設定画面の認証機能を有効にする

2. 設定画面のパスワードを第三者に推測されない複雑なものに設定する

3. ファームウェアを手動で最新版にアップデートする

4. ファームウェアの自動アップデート機能を有効にする
5. 機器のサポート期間を確認し、終了した機器は新しいものに買い換える

6. 不要なサービス（DNS、NTP、SSDP）を外部に公開しない

7. 不要なポートフォワーディング（ポート変換、ポート開放）を設定しない

8. インターネット側から管理画面（機能）にアクセスさせない

■調査結果（全体）

		①ルーター乗っ取りリスク認知率	②ルーター安全管理対策認知率	③ルーター安全管理対策実施率
調査結果	全体	69.3%（男性 65.5%：女性 73.1%）	43.3%（男性 47.4%：女性 39.2%）	40.3%（男性 45.4%：女性 35.3%）
調査結果 （層別）	H層	77.8%（男性 72.3%：女性 83.3%）	74.0%（男性 76.5%：女性 71.5%）	73.1%（男性 76.9%：女性 69.2%）
	M層	73.5%（男性 72.2%：女性 74.9%）	38.1%（男性 44.6%：女性 31.5%）	34.6%（男性 41.2%：女性 28.1%）
	L層	56.5%（男性 51.9%：女性 61.2%）	17.9%（男性 21.2%：女性 14.6%）	13.3%（男性 18.1%：女性 8.5%）
評価		・ H層/M層のスコアは高水準で、L層の認知率とでは若干の乖離が見られた。 ・ 3つのリスクの中で「第三者への攻撃加担」の認識率が低い傾向にある。 ・ 各層ともに、男性よりも女性の方が乗っ取りリスクの認知率が高い傾向が見て取れ、これは安全管理対策の認知率および実施率では見られない傾向である。	・ H層とM層/L層との差が大きい。 ・ 各層ともに男性の認知率が高い傾向が見て取れた。 ・ 各層ともに設問内容の「設定画面のパスワードを第三者に推測されない複雑なものに設定する」よりも、「設定画面の認証機能を有効にする」方が認知率が高い傾向が見て取れた。	・ H層とM層/L層の差が大きい。 ・ 各層ともに男性の実施率が高い傾向が見て取れた。 ・ 特に、L層の女性に至っては、全世代で10%以下の実施率となった。 ・ また、M層の50～60代女性およびL層の男性についても、ほぼ20%以下と低い実施率となっている。

※各項目の全体の数値は、H層、M層、L層を平均化した数値